

小物・つま物野菜の国内生産量伸長率ランキング

農水省「地域特産野菜生産状況調査」より

	品目名	作付面積 (ha)			生産量 (トン)		
		2010年産	2000年産	対比 (%)	2010年産	2000年産	対比 (%)
1	スナップエンドウ	404	89	453.9	4,838	830	582.9
2	パクチョイ	22	5	440.0	299	57	524.6
3	パプリカ	63	21	300.0	2,663	809	329.2
4	ズッキーニ	290	83	349.4	4,292	1,384	310.1
5	タデ	20	36	55.6	199	77	258.4
6	ゴーヤー	937	568	165.0	23,281	12,425	187.4
7	ルッコラ	45	11	409.1	269	154	174.7
8	マッシュルーム	205	157	130.6	4,496	2,578	174.4
9	トウガラシ (辛味)	59	28	210.7	305	216	141.2
10	ウルイ	77	30	256.7	247	176	140.3
11	ミニカボチャ	57	51	111.8	531	419	126.7
12	ヤマゴボウ (栽培)	51	52	98.1	556	502	110.8
13	オクラ	749	579	129.4	12,003	10,858	110.5
14	非結球レタス	2,624	2,646	99.2	48,287	50,926	94.8
15	タアサイ	29	38	76.3	654	718	91.1
16	ワサビダイコン	81	124	65.3	1,132	1,243	91.1
17	花ミョウガ	526	998	52.7	5,484	6,101	89.9
18	トウガン	226	266	85.0	10,478	11,683	89.7
19	クレソン	36	57	63.2	675	787	85.8
20	芽キャベツ	25	25	100.0	291	340	85.6
21	ラッキョウ	901	1,002	89.9	12,365	15,071	82.0
22	カイワレダイコン	—	—	—	3,624	4,456	81.3
23	ツルムラサキ	91	106	85.8	1,521	1,942	78.3
24	ラディッシュ	73	123	59.3	719	931	77.2
25	モロヘイヤ	128	176	72.7	1,658	2,242	74.0
26	シソ	691	829	83.4	9,015	12,735	70.8
27	カンピョウ	76	288	26.4	278	447	62.2
28	ナバナ	1,109	1,275	87.0	7,506	12,513	60.0
29	ツケナ (ミズナを除く)	2,498	3,752	66.6	54,888	91,854	59.8
30	エシャレット	121	180	67.2	1,304	2,415	54.0
31	葉ショウガ	82	180	45.6	2,300	4,325	53.2
32	クワイ	50	98	51.0	451	907	49.7
33	ウド	406	1,409	28.8	3,479	7,296	47.7
34	シロウリ	94	192	49.0	5,006	10,604	47.2
35	アサツキ	63	80	78.8	577	1,267	45.5
36	実エンドウ	643	1,259	51.1	5,057	11,272	44.9
37	セリ	96	197	48.7	1,568	3,786	41.4
38	パセリ	219	536	40.9	3,663	9,179	39.9
39	ミョウガタケ	27	22	122.7	75	198	37.9
40	ワケギ	142	304	46.7	1,969	5,350	36.8
41	ユリ根	109	197	55.3	1,598	4,740	33.7
42	食用菊	136	398	34.2	1,132	3,374	33.6
43	ジュンサイ	69	275	25.1	193	808	23.9

注) ①2000年調査ではコマツナ、ソラマメ、シュンギク、チンゲンサイ、ニラ、ニンニク、根ショウガ、ミツバも含まれていたが、その後の生産増に伴い一般野菜の統計に変更②食用花、ゼンマイ、タラノメ、トンプリ、ハナニラ、フキ、ワラビは生産減少により調査対象から外れた③タケノコ、ワサビは特用林産物生産動向で調査④マッシュルームの作付面積単位は千㎡

スナップエンドウ、パプリカ、ズッキーニなど伸長

小物・つま物野菜の生産動向

「野菜が売れない」といわれる中、需要増加に伴って国内生産量が伸びている品目もある。上表は農水省「地域特産野菜生産状況調査」(隔年)から、小物野菜・つま物野菜の作付面積、生産量を2000年と10年で比較したものである。

それによると、一定の生産量がある品目では、スナップエンドウ、パプリカ、ズッキーニ、ゴーヤー、マッシュルーム、ミニカボチャ、オクラなどが伸長している。非結球レタスはマイナスだが、植物工場での生産を加えれば、増加が予想される。また、コマツナなど8品目は一般野菜の生産統計に移行した。

逆に、そのほかの伝統的な小物・つま物は軒並み減少。タラノメ、ゼンマイなどの山菜類のように、生産減少により調査されなくなった品目もある。